

地域の未来を共に築くため



小林 典之 (こばやし のりゆき)

1964年11月生まれ、天塩郡幌延町出身。札幌の専門学校を卒業後東京の企業へ就職。2025年4月から幌延町間寒別地区の地域おこし協力隊に着任。

【協力隊に応募した経緯】

私は長年、東京で暮らしてきました。都市での生活は便利ではありましたが、どこか心の奥に、故郷への思いがずっと残っていました。そんな折、田舎に住む実家の家族から「地域おこし協力隊」という制度について教えられました。最初は漠然とした興味でしたが、調べていくうちに、その制度が地域の活性化を目的とし、地域交通の運転や草刈り、除雪といった集落支援の仕事を担当ものであることを知りました。

その内容を知ったとき、私はふと「自分にも何か地域に貢献できるのではないか」と感じました。これまで都市で培ってきた経験や、穏やかな性格を活かして、地域の人々と協力しながら支え合うことができるかもしれない。そう思うようになりました。

そして、ちょうど定年を迎えるタイミングでもあり、これからの人生をどう過ごすかを考えるなかで、「地域おこし協力隊への参加」という選択肢が、私にとって非常に自然な流れに思えました。都会の喧騒^{けんそう}から離れ、地域の人々と共に汗を流しながら、暮らしのなかにある課題の一つひとつ解決していく。そんな生活に、深い充実感と新たな生きがいを見出せるのではないかと感じ応募しました。

【これまでの活動】

地域おこし協力隊として着任した直後、私はNPO法人の先進的な取り組みで知られる「NPO法人上美^{かみび}生^{せい}」にて、約2か月間の研修を受ける機会をいただきました。この研修では、NPO法人の運営に関する実践的なノウハウを学ぶとともに、地域に根ざした事業活動の現場を体験することができました。さらに、地域で行われるさまざまな行事にも積極的に参加し、住民の方々との交流を通じて、地域社会の温かさや結びつきの強さを肌で感じることができました。この研修は、今後の活動において大きな糧となる貴重な経験となりました。

研修を終えた6月からは、間寒別^{といかんべつ}地区へ戻り、地域おこし協力隊としての本格的な活動を開始しました。現在は、地域住民の生活支援をはじめ、地域団体の活動支援、そして地域行事の支援など、地域の活性化に向けた幅広い業務に携わっています。これらの活動を通じて、地域の課題やニーズをより深く理解し、住民の皆さんと協力しながら、持続可能な地域づくりに貢献できるよう努めています。

また、並行して「NPO法人ミナといかん」の事務局業務も担当しており、団体の運営に関する事務作業や調整業務を通じて、地域資源の活用やネットワークづくりにも関わっています。地域の未来を支える一員として、日々の活動に真摯に取り組みながら、地域の皆さんとともに歩む喜びを感じています。さらに、町からの委託事業として、公共空間の管理業務にも携わっております。今年度は、パークゴルフ場、農村公園、共同果樹園の管理を受託しており、地域の方々が安心して利用できる環境づくりに努めています。これらの施設の運営にあたっては、地域住民の協力を得るためにボランティアスタッフを募り、共に活動を進めています。地域の皆さんと力を合わせながら、



パークゴルフ場芝刈り

公共空間の価値を高め、地域の魅力を発信していくことを目指しています。

このように、地域おこし協力隊としての活動は多岐にわたりますが、どの業務においても「地域に寄り添い、共に歩む姿勢」を大切にしながら、日々の取り組みを重ねています。今後も、地域の皆さんとの信頼関係を築きながら、より良い地域づくりに貢献していきたいと考えています。



有償デマンド運送*

【若き風、静かな町に吹く】

幌延町問寒別地区では、数年前から若い世代による新たな挑戦が始まり、地域の活性化に大きな光が差し込んでいます。かつては高齢化と人口減少に悩まされていたこの地域に、今では数名の若者が起業し、それぞれの個性とアイデアを活かした事業を展開しています。彼らの取り組みは、地域に新しい風を吹き込み、住民の暮らしに彩りと活力をもたらしています。なかでも注目されているのが、バスを改造したキッチンカーの営業です。かつて地域を走っていたバスを再利用し、移動式の飲食スペースとして活用することで、地域内外の人々に食の楽しさを提供しています。このキッチンカーは、イベント時の出店や地域の集まりなどでも人気を集めており、問寒別の新たなシンボルとして親しまれています。

また、民泊事業も立ち上げられ、地域に滞在する人々が地元の暮らしを体験できる場が整えられました。古民家を改修した宿泊施設では、都市部から訪れる人々にとっては癒やしと発見の場となっています。こうした取り組みは、観光資源の少ない地域においても「暮らしそのものが魅力になる」ことを証明しています。

*有償デマンド運送

利用者の予約に応じて運行する有料の交通サービス。

さらに、鉄道グッズの販売というユニークな事業も展開されています。幌延町にはかつて町営軌道が走っていた歴史があり、鉄道ファンにとっては貴重な資料やアイテムが眠る土地でもあります。若者たちはその歴史を掘り起こし、グッズ化することで、地域の文化を発信しながら収益化にも成功しています。これにより、鉄道ファンや観光客が訪れるきっかけが生まれ、地域の認知度向上にもつながっています。

これらの事業は単なるビジネスではなく、地域の課題を見つめ、住民とともに未来を築こうとする姿勢の表れです。若者たちの柔軟な発想と行動力は、問寒別地区に新たな可能性をもたらし、地域の誇りと希望を再び呼び起こしています。静かな農村に^{とも}灯ったこの小さな挑戦の火は、やがて大きなぬくもりとなって、地域全体を包み込んでいくことを願っています。

【将来の展望等】

現在、生活支援、公共空間の管理やボランティアスタッフの活動を通じて、地域住民との協働が着実に進んでいます。こうした取り組みは、地域の暮らしを支える基盤となると同時に、住民一人ひとりが地域づくりの担い手であるという意識を育んでいます。

今後は、こうした流れをさらに発展させ、地域住民が主体となる運営体制の構築を目指していきたいと考えています。そのなかで、地域おこし協力隊やNPO法人、そして若き起業家たちは、住民の挑戦を支える伴走者としての役割を担い、共に歩む存在となることが理想です。このような体制が整えば、地域の課題に対して柔軟かつ持続的に対応できる力が育まれ、地域の自立性と持続性が大きく高まることが期待されます。住民が主体的に関わり、外部の支援者がそれを支えることで、地域全体が一つのチームとして機能し、未来に向けた力強い歩みを続けていけると考えます。



ぬかなん 糠南駅付近の小山から俯瞰した問寒別市街地